

平成25年度町田市教育委員会

第8回定例会会議録

- 1、開催日 平成25年（2013年）11月1日
- 2、開催場所 第三、第四、第五会議室
- 3、出席委員
- |     |   |    |    |
|-----|---|----|----|
| 委員  | 長 | 佐藤 | 昇  |
| 委員  |   | 岡田 | 英子 |
| 委員  |   | 井関 | 孝善 |
| 委員  |   | 高橋 | 圭子 |
| 教育長 |   | 渋谷 | 友克 |
- 4、署名委員
- 委員長
- 委員
- 5、出席事務局職員
- |                |    |     |
|----------------|----|-----|
| 学校教育部長         | 坂本 | 修一  |
| 生涯学習部長         | 田中 | 久雄  |
| 学校教育部次長        | 高橋 | 良彰  |
| （兼）教育総務課長      |    |     |
| 教育総務課担当課長      | 有田 | 宏治  |
| （兼）教育総務課事務係長   |    |     |
| 学校教育部次長        | 佐藤 | 卓   |
| （兼）施設課長        |    |     |
| 学校施設管理センター担当課長 | 守屋 | 昌次郎 |
| 学務課長           | 田中 | 英夫  |
| 保健給食課長         | 佐藤 | 浩子  |
| 学校教育部指導室長      | 小池 | 慎一郎 |
| （兼）指導課長        |    |     |
| 指導課担当課長        | 吉川 | 清美  |
| 統括指導主事         | 小林 | 洋之  |
| 教育センター所長       | 谷  | 博夫  |
| 生涯学習総務課長       | 神田 | 貴史  |

生涯学習センター長	熊 田 芳 宏
生涯学習センター担当課長	外 川 吉 宏
生涯学習部図書館担当部長	尾留川 朗
(兼) 図書館長	
図書館市民文学館担当課長	横須賀 秀 男
(町田市民文学館長)	
図書館副館長	近 藤 裕 一
図書館担当課長	吉 岡 一 憲
書 記	高 橋 由 希 子
書 記	大 島 利 彦
書 記	谷 山 里 映
書 記	村 井 博 宣
速 記 士	平 野 京 子

(株式会社スタッフジャパン)

## 6、提出議案及び結果

議案第58号	町田市立学校学校支援地域理事の解職及び任命の臨時専決処理に関し承認を 求めることについて	承 認
議案第59号	教育委員会職員の休職に係る処分の臨時専決処理に関し承認を求めること について	承 認
議案第60号	町田市教育委員会児童生徒表彰規程の制定について	原 案 可 決
議案第61号	都費負担教職員の休職に係る内申の臨時専決処理に関し承認を求めること について	承 認
議案第62号	都費負担教職員の死亡に係る報告の臨時専決処理に関して承認を求めること について	承 認

7、傍聴者数            3    名

## 8、議事の概要

午前10時00分開会

○**委員長** おはようございます。それでは、ただいまより町田市教育委員会第8回定例会を開会いたします。

本日の署名委員は岡田英子委員です。

まず、日程の一部変更をお願いします。日程第2、議案審議事項のうち、議案第59号、第61号、第62号は非公開案件ですので、日程第4、報告事項終了後、一旦休憩をとり、日程第5として、関係者のみお残りいただき審議をしたいと思います。これにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○**委員長** ご異議なしと認め、そのように進めさせていただきます。

それでは、日程第1、月間活動報告に入ります。

まず、教育長から説明をお願いいたします。

○**教育長** それでは、前回の教育委員会定例会以降の教育委員会に関わる主な活動状況について、ご説明申し上げます。

前回の定例会は10月4日、金曜日でございました。同じ日に、このほど行われましたスポーツ祭東京2013の軟式野球の開始式が市内の小野路球場で開かれましたので、これに出席をしております。

10月7日、月曜日ですが、市教委訪問ということで南三小にお邪魔してまいりました。子どもたちが非常に活発で生き生きとしている、これがとても印象に残りました。

同じ日に、スポーツ祭東京2013、バドミントンも町田を主会場としているわけですが、表彰式が総合体育館で行われましたので、プレゼンターとして出席をしております。

翌8日、火曜日ですが、市議会の本会議、これは9月議会の第3回定例会の最終日ではありますが、表決が行われました。委員長とともに出席をしております。

同じ日に、定例で行っております市長に対する教育委員会の活動報告を行いました。10月の教育委員会の内容、その他を報告したところです。

翌9日、水曜日は、東京都市教育長会の定例会が開催されましたので、これに出席をしております。

10日、木曜日ですが、校長役員連絡会が開かれましたので、これに出席をいたしました。

15日の火曜日ですけれども、町田消防署の署長さんが新たに着任をされましたので、ご挨拶にお見えになった際にお会いして、お話をさせていただきました。特に防災教育への協力についてお願いをしたところです。

17日の木曜日が定例の校長会でした。

翌18日、金曜日ですけれども、町田第一小学校の140周年の記念式典並びに祝賀会が開催されましたので、各委員とともに出席をしております。今年度、140周年を祝う学校が町田市内に4校ありますが、その2校目です。

同じ日に、町田市民文学館において、赤川次郎展の内覧会が開催されましたので、やはり各委員とともに出席をいたしました。

19日の土曜日ですけれども、この日は子ども教育委員会が開催されました。教育委員会のテーマは、昨年と同じ「町田市の小学校を楽しくするために、ぼくたち、わたしたちにできること」というものであり、昨年同様、非常に活発な議論がそれぞれのグループごとに行われ、発表も大変立派でした。

翌20日の日曜日ですけれども、金井獅子舞の石碑の除幕式がございましたので、これに出席をしております。金井獅子舞につきましては、たしか昭和38年だったと思いますが、町田市の無形民俗文化財に指定されております。町田市の無形民俗文化財に指定されたのが5件ありますが、そのうちの1つということです。鶴見川の河畔にこの石碑は設置されたわけですが、そこは鶴見川と金井川のもとの合流点で、その場所が金井獅子舞、雨乞いの獅子舞を踊った地であるということで、そこに石碑をつくったものでございます。

同じ日に、国際版画美術館でMOA美術館町田みんなの児童作品展の表彰式がございました。教育委員会賞もその中にごございますので、プレゼンターとして出席をしております。

週が明けて21日、月曜日ですが、成瀬台小学校への市教委訪問でございました。学校全体が大変落ちついている印象です。挨拶も大変しっかりしていました。

23日、水曜日は、戦没者追悼式が市民ホールで行われました。教育委員会を代表して出席をしております。

26日の土曜日に、小山小学校の140周年記念式典並びに祝賀会が開催されました。先ほどの町田第一小学校に続いて3校目ということになります。各委員とともに出席をしております。

27日の日曜日ですが、文学館まつりが開催され、それから生涯学習センターまつりが最終日ということで、これをそれぞれ見学させていただきました。この内容については、後

ほど報告がございます。

28日、月曜日ですが、市教委訪問で堺中学校へ伺いました。各学年ともに、生徒が非常に落ちついている印象を持ちました。

31日、昨日でございますが、国際版画美術館において、町田市教育講演会が開催されました。演題は「学力向上のための学校や家庭の取組」でした、これに各委員とともに出席をしております。

以上です。

○**委員長** ありがとうございます。両部長から何かございましたらお願いします。

○**学校教育部長** 特にございません。

○**生涯学習部長** 特にございません。

○**委員長** ただいまの教育長の報告につきまして、各委員から質問などありましたら受けたいと思いますが、いかがですか。よろしいですか。

それでは、各委員から報告をお願いしたいと思います。まず、高橋委員、お願いいたします。

○**高橋委員** 2件報告させていただきます。

10月5日、大戸小学校、武蔵岡中学校、小中一貫校であるゆくのき学園の道徳授業地区公開講座に参加いたしました。この日、1校時目に、1年生から9年生まで全学年で命の尊さについての道徳の授業が、それぞれの学年で発達段階に応じた読み物教材を用いて行われていました。2校時目は、1年生から9年生までが体育館に一堂に会し、そこに保護者、教職員、地域の方々も加わって、命の尊さについての講演を行いました。5冊の絵本を用いて、命の誕生の不思議や、生まれ持った才能のこと、自分を大切に育むこと、友達のいいところを探すこと、限りのある命についてそれぞれ学び、最後に一人一人はかけがえのない存在であることを示す内容の歌を歌った後、全員でその歌を歌って終わりました。

講演会后、児童生徒にワークシートの形でアンケートがとられ、そのアンケートを全て見せてもらいました。命の尊さを学ぶことによって、多くの子どもが改めて自分の存在の大きさや意味を考え、自分に自信が持てるようになった、勇気が湧いた、自分のいいところを発見できた、人のいいところを見つけていきたい、自分の命も人の命も大切にしたいなど、命の尊さを学ぶことで自尊感情が高まることがよくわかりました。

昨日の町田市教育講演会の中でのデータに、自分のことをだめな人間と思う子どもの割合が1980年は64%、2012年は84%ということで、20%増加しているということから、子ど

もたちの自信の欠如が学習意欲の低下に何かしら影響しているのではないかという推察がなされていました。子どもたちが学習に対しても主体的に意欲を持って取り組むために、自尊感情をいかに高めていくかは研究すべき課題ではないかと思います。道徳教育を軸として、全教育課程の中で自尊感情を高めることを考えていかななくてはならないと思っています。本日午後行われる町田第五小学校の研究発表会に行きますが、どんな研究発表がなされるかとても楽しみにしております。

10月28日、生涯学習インストラクターの会との共催で行われました町田市学校支援ボランティアコーディネーターミーティングに参加してきました。今回の研修では、「シニアボランティアの力を活かすために」をテーマに、NPO法人まちと学校のみらい副代表・あおば学校支援ネットワーク代表の竹本靖代氏の「地域とともにある学校づくり～コーディネーターの重要性」の講演、次に、東京都健康長寿医療センター研究所の倉岡正高氏と鈴木宏幸氏から、「シニアボランティアの力を活かしたコーディネート」及び「記憶とコミュニケーション、認知機能の理解」についてレクチャーいただきました。

町田市では、今年1月から生涯学習ボランティアが募集され、今後さらに学校支援センターと連携することで、より多くのシニアボランティアの方々が学校現場に入っていけることが想定されますので、大変タイムリーな研修会だったと思います。特に東京都健康長寿医療センター研究所の倉岡氏は、子どもにとっていいまちにしたいというビジョンのもと、ご自身が小学校のボランティアコーディネーターを長年されていて、地域のシニアボランティアの方々を活用されてきた経験を具体的に話してくださいました。シニアボランティアへの接し方や学校との上手なつなぎ方など、経験に基づく多くのアイデアを教えてくださいました。ボランティアコーディネーターの方々にとって、すぐに役立つ情報を得ることができ、大変有意義だったと思います。

また、つけ加えまして、10月25日から27日まで生涯学習センターまつりが行われていましたが、多くのシニアの方々が、ご自分たちの日頃の学習成果を生き生きと発表されました。その生涯学習センターまつりに、各学校のボランティアコーディネーターの方々が実際に見学に行かれ、その学習成果などが学校教育の中に活かさないかと検討されたそうです。生涯学習センターまつりが、そのようなつなぎの場になっていることを心よりうれしく思いました。人との関わりがどうしても少ない現代の子どもたちにとって、地域に住む多くの大人との出会いは大変重要なことですから、これからシニアボランティアをはじめ、多くのボランティアの方々が教育活動の中で子どもと出会い、ともに支え合うよう

な関係が築いていけますようお願いしています。

以上です。

○**委員長** ありがとうございます。次に、井関委員、お願いいたします。

○**井関委員** 私、今日は、東京都市町村教育委員会連合会の行事が10月に2回ありましたので、それについてご報告いたします。

10月11日に、管外視察研修会として、佐藤委員長、岡田職務代理、高橋委員と4人で東京の下町の施設を2か所見学しました。立川駅からのバスの中で各市町村の今年の重点事項について説明がありました。このアイデアは、以前、岡田委員が提案したものです。バスの中の約1時間半ですが、うまく使うことで本当の研修になると思います。町田市と同じ1号車の中の市町村では、西東京市が来年度から「対話による美術鑑賞」を始めるそうです。美術では、作るとか描くが主になっていますが、今年からニューヨーク近代美術館で研修を受けた方に鑑賞について指導してもらい、コミュニケーション力と思考力を育てたいというふうに言っていました。

それから、昭島市では、今までになかった特別支援推進計画を作って、事務組織も改編したそうです。同じく立川市でも、特別支援に力を入れて特別支援課を作ったそうです。なお、町田市については、佐藤委員長が、教育委員同士で教育委員会制度などを勉強しているということを報告されました。

見学の1番目は、江戸川区にあるグローバル・インディアン・インターナショナルスクール東京校で、本部はシンガポールにあります。東京校は2006年に設立されて、日本の幼稚園、小学校、中学校等々まで生徒が300名近く在籍し、インド人が50%、日本人が40%くらいです。保護者の職業は、インド人ではIT技術者が多く、日本人の親は教育関係、自営業、その他いろいろだそうです。職員数はわかりませんが、HPのTeache's Dayの写真には、ほとんど女性ですが、20人の教職員が並んでいました。見学は、授業中でも教室にどんどん入っていいと言われました。事実、私どもが入っても平気で授業を進めていました。ヒンズー語の授業の教室では、私が入口から入ると、児童が全員起立して礼をしてくれました。何か授業の邪魔をしたような感じで気が引けたのですけれども、後で聞きますと、インドの学校では、そういう人が来ると普通のことのようです。10人ぐらいの少人数の授業が多く、一番多くても20人でした。

見学の後は、校長の学校紹介を聞きました。その中で、大学生が学力のほか対外的にも活躍していること、また、卒業生が世界に行って活躍していることを挙げていました。こ



この学校では制服があって、ヨガなど精神的な訓練もしていますが、地域の中に溶け込むように努力していることを力説していました。かなり費用がかかるだろうと思うようなことが目につきました。佐藤委員長が「保護者の収入が高いからね」というようなお話をされましたが、別のインターナショナルスクールの学費が約 200万円というのを思い出して、高いのは当たり前だなどと思いました。入学申込には、父と母の収入を記入する欄がありました。

見学先の2番目は、お台場にあるパナソニックセンター東京です。入場料は 500円、高校生以下は無料です。1階はメーカーのショールーム的なところもありますが、2階、3階は、リスピーアといって、子ども達に「理科の面白さや驚き、数学の美しさや不思議」を伝えることで、理数に少しでも興味を持ってもらいたいという趣旨の下で設立したそうです。実際に、マシンといいますか、スイッチを入れることによって、原理とか法則を楽しみながら学べるようになっています。約2時間いたのですけれども、やることが多くて、あっという間に時間が過ぎました。マシンの前に、ここにタッチしてというところがあるのですが、そこへ渡されたボイスレコーダのようなものをかざすと、自宅に帰ってパソコンで自分が何をやったか、また、その原理などの説明がわかるようになっていました。私は、試しにリスピーア出口にあるプリクラで撮った写真を入れてみたら、見えました。

もう一件は、10月17日の午後に、先ほどの東京都市町村教育委員会連合会ですが、第2ブロックの研修会がありました。第2ブロックは、町田市のほか、八王子、府中、稲城などの7市、それから3つの島嶼町村からなる研修会です。日野市立平山小学校というところへ行きまして、「ICT活用教育の推進について」というテーマで、校長の五十嵐俊子先生の講演と授業参観がありました。高橋委員と中原統括指導主事が一緒でした。五十嵐校長は南成瀬小で初任だったそうなので、町田市ともご縁のある方です。校長になる前は、統括指導主事として日野市のICT教育推進室長をやっておられました。このテーマは、簡単に言いますと、パソコン、実際にはタブレットですが、ここでタブレットというのは画面を指やペンでなぞって入力できるパソコンとしますが、これを使うことによって、一斉学習に加えて、個別学習、協働学習を可能にして、教えられる学びから主体的で創造的な学びを可能にしようという目的を持ってやっているそうです。通常のパソコンとプロジェクターとか、あるいは大型ディスプレイを使った授業ですと、先生が教材や問題を示すような一斉学習型の使い方が多いと思いますが、平山小の授業では、例えば4人のグループで議論している結果が、先生のパソコンと大型ディスプレイに全グループ分同時に表示

され、先生は評価に使い、児童は自分たちの議論と、よそのグループの議論とを比較して意見を書いたりしていました。

実際のテーマは、「スーパーマーケットにいるとき、地震が起きたらどういうふうに行動すればよいか」ということをやっていました。1グループごとに各グループが発表するのに比べますと、比較にならないぐらい時間の節約になります。また、パソコンの使い方になりますけれども、教え合うために、4枚の羽根の風車のように机を並べて、児童が90度ずつ向きを変えている。隣の人に教えるときには、そのパソコンの画面を90度回転させて画面を見せていました。平山小では、この机の配置を手裏剣型と子どもたちは簡単に言っていました。

設備としては、図書室はメディアセンターにもなっていて、キーボードをパソコンから外して棚に並べていましたが、旧式のタブレット型パソコン40台を、今年の5月、リース契約が終了したので、最新のタブレット型に変えています。日野市の小学校は17校あるようですが、その中で平山小と日野第四小学校のICT化が進んでいるそうです。平山小は、平成21年に大型の電子黒板を全教室に設置しました。そして、平成22年にタブレットを4～6年生全員分を入手しています。これらは市長部局の先導で国の予算を取ってきたということです。年度末だったので申請したら、取りやすかったということではないかと思えます。

研究を推進するのに、信州大学の東原義訓教授の指導を受けていますが、遠隔地ですのでテレビ会議を活用しました。この装置もJST（科学技術振興機構）の予算を取ってきて設置しているということです。平山小のエビデンスの1つですが、国語のテストで、4年生から6年生、平成24年の4月と12月の結果を比較しますと、どの学年も「読む」と「書く」観点が大きく向上しています。平成24年度の全校児童のアンケートですと、「パソコンを使った学習は楽しい」が91%、「学習していることは将来に役立つ」が96%と、実際の授業をしている先生方を喜ばせるような回答結果が出ています。

このように進んだ学校ですので授業参観希望も多く、今年は公開研究事業3回に限りまして、最後が来年の2月28日、金曜日で、論より証拠、実際に見ることができる機会がまだ残っています。簡単に雰囲気を知ろうというのであれば、平山小のホームページとか、日野市教委のICT活用実践事例というのを見ますと、実際の授業の動画も出ていました。

ICTに戻りますけれども、この学校のユニークな教育というのは、9月24日の午後7時のNHKのニュースで紹介されていましたけれども、災害から命を守る教育をしている

ということで、昼休みの教科に入らない15分間、災害行動について勉強していました。避難訓練も無通告で突然やると言っていました。

以上です。

○**委員長** 次に、岡田委員、お願いいたします。

○**岡田委員** 報告いたします。10月17日から18日にかけて、佐藤委員長と一緒に、名古屋市で行われました平成25年度市町村教育委員会研究協議会に行っていました。1日目は、教育委員会制度についての話でした。2日目が分科会になっておりまして、私は第2グループの「特別支援教育の取組について」というところで、新潟県三条市、愛知県常滑市の取組について報告を受けてきました。どちらの市も、特別支援教育に取り組むことは、普通級の児童生徒をはじめ、学校教育、地域コミュニティー全体に資するものであるという考えで、これは町田市とも共通のものでした。

大きく違うところは、三条市は町田市と比べると大体4分の1から5分の1の小さな市で、それから、常滑市がちょうど町田市の半分ぐらいの規模です。ですから、それぞれの取組は、町田市が真似できるところもあり、できないところもあり、それぞれの特色が出ているということで参考にまいりました。

三条市ではどういう取組をしているかという、ここは三条市子ども・若者統合サポートシステムということで、障害をもっている子どもたちが、生まれたときから15歳、高校に入るまでを見届けたいということで、こちらでは教育委員会の中に、町田でいう子育てのところすべてを統合して、教育委員会で一貫して保育園、幼稚園からずっと見ていくということでした。そして、ここで指導主事をやっていたら唐沢さんが一番気にしているのは、今、ほぼ全員が高校に進学するような世の中にあって、高校に行ってからのごことが大変心配だというようなお話をされていました。いずれにしても、保育士が小学校へ授業参観に行ったり、逆に、小学校の先生が保育園へ見に行ったりというような連携が非常に厚くできているというのは、うらやましい点ではあるなと思いました。

常滑市は、一人一人を徹底的に大切にすることを、やはり指導主事の山本氏が発表してくださいました。ここでやっていることは、生活指導員の方の活動が大変盛んですけれども、その生活指導員の方、そして先生、保護者、この三者が「しとねる」ノートというものを活用して情報の共有を非常に密にしているという取組でした。

「しとねる」というのは、愛知のほうの言葉で「人」が「しと」になって、そして「しと」を練ることで人は育てられる、教育とは人の間で練り合わせていくことだという考え

方から「しとねる」という名前がついたということでした。この「しとねる」という言葉は大変いい言葉だなと私も思いました。町田市でも、子どもたちが学校、家庭、地域で練られて大人になっていくといいなと感じました。

次に、10月19日、子ども教育委員会について報告いたします。私のグループには、学校を楽しくするというテーマの中で「勉強」ということを取り上げた子がいたので、最初はちょっと緊張しました。このお子さんの言っていることは、学校でもっと自由に自分のしたい研究があり、また、友達の研究が自分のものと同じじゃつまらないということでした。例えば私なども学校訪問に行ったときに、壁に掲示してある、鎌倉遠足でしたら鎌倉の調べた地図を見るのですけれども、割合と内容が似通っているのです、そのところがもっと、この子は食べ物だけに特化して、この子は歴史、この子は地理に特化してというようなことをすると、みんなの発表を聞いて、自分自身が知らないことをもっとたくさん知ることができると思います。私のグループの子は、みんなが同じような発表になって、同じような掲示になっているのはつまらないという主張をしていました。確かにそういった一面もあるので、これについては何かしてあげられるといいなと感じながら聞いていました。

10月23日、函師小学校に指導主事訪問に行つてまいりました。函師小学校は創立5年になろうとする新しい学校ですけれども、創立以来の校長先生の学校経営ビジョンの下に、学校が地域コミュニティーのセンターとなるよう、子どもたちは、保護者やたくさんの地域の方が頻りに訪れられるような環境の中で伸び伸びと暮らしていました。この学校だけでなく、今、日本全国どこもそうだと思うのですが、ベテランの先生方の退職により経験の浅い先生方が増えていることで、育成をしなければならないところです。ただ、大変意欲的に研究事業などに取り組んでいる若い先生方が多く、頼もしく感じました。また、本校だけでなく、特別な支援を要する子どもたちが増加しています。この点も町田市だけでなく全国的な傾向ですけれども、そのために一人一人に対する多様な対応が求められているという中で、経験の浅い先生が増えているということは、やはりそれなりに校長先生とか指導に当たる先生方は大変だと思います。教育委員会としてもそこをサポートしていかねばいけないということも意識して帰つてまいりました。

以上です。

○**委員長** ありがとうございます。私からも1点報告させていただきます。

昨日、東京都教育の日の関連事業として、町田市教育講演会が行われまして、これに出席いたしました。先ほど教育長からも報告がありましたが、学力向上をテーマにした内容

で、ベネッセ教育総合研究所の谷山所長が講演されました。時代の変化という背景や、保護者の意識について、データをもとにお話いただきましたが、とても興味深く、特に学校に対する満足度が高まっているという指摘は、とてもありがたく感じました。学力向上を含め、保護者と教師が子どもへの目線をそろえて取り組むという姿勢にも賛同でき、出席していた保護者や学校関係者にとっては有意義な講演会であったと思います。企画から実施まできめ細かく対応された指導課の皆さんの労を労りたいと思います。

この教育講演会は来年度も実施されるのではないかと思います、私が思っていることを参考までに語らせていただきます。それは誰を対象にした講演会にするかということで、今回もそうでしたが、参加対象は、小・中学校の管理職教員、そして保護者になっておりました。これを一般市民に広げられないかということです。これまで教育委員会事務局も学校や生涯学習事業を実施している方々も、皆一生懸命取り組んでいらっしゃいますが、これらのことが広く公表されているとは必ずしも言えない状況にあると思います。

例えば学校の施設にいたしましても、耐震化は完了している、トイレが今どんどんよくなっている、エアコンが普通教室には整備されて、図書室なども間もなく完了し、いよいよ特別教室にもエアコンを入れようとしている。あるいは、そのほかの例えば食物アレルギーの対応も後で報告があるようですが、そういうことについてもいろいろな取組をしている。こういうことをもっと広く市民に伝えるべきではないか。そういう機会をどうやって設けたらいいか。現在は「まちだの教育」という広報がありますが、この講演会も、よくよく考えてみれば、東京都教育の日を制定した趣旨は、まさにこれは都民の皆さんにということであり、町田市が行うとすれば、市民の皆さんに公表したり、場合によっては協力を求めたり、そういう機会にできないのかと思いました。できるかどうかわかりませんが、ぜひ来年度に向けて検討していただければと思います。内容が変わってきますと、もしかしたら指導課が担当する事業ではなく、オール学校教育部、あるいはオール生涯学習部、または、その内容によってはオール事務局で進めるような事業になるのかもしれませんが、この教育講演会という機会をもっとそのような方向で実施できたらいいのではないかという感想を持ちましたので一言述べさせていただきます。

それでは、私も含めて、4人の教育委員の報告が終わりましたので、相互に質問などありましたらお願いいたします。

○**教育長** 今の最後の佐藤委員長の話に関連してですけれども、教育委員会が取り組んでいるさまざまな内容について、つい先日も新聞紙上に町田の取組が載りました。もうすで

にご承知だと思いますが、従前より、いわゆるマスコミ、あるいはプレスに対する情報提供をかなり積極的にやっています。そういう意味で、新聞、特に多摩版などをご覧になっていて、町田の教育に関する取組についての記事が飛躍的に増えたということは感じられていると思います。ですから、1点は、従前同様、こういった姿勢を続けていって、町田の教育委員会の取組というものはどういうものなのかというようなことについては、これからも積極的に広報していきたいと考えています。

もう1つ、教育講演会というものをもう少し市民に対して対象を広げる形をとれないのかという点ですけれども、この機会をそういうふうな機会とするか、あるいは、また別の形で市民を含めた催し・行事を考えるか。これはまだ議論の余地はあるのだろうと思います。ただ、今お話の、ある意味ご提案という部分もあるのだろうと思いますけれども、そこも含めて、少し広い観点から、教育委員会の活動を知っていただく努力はしていくべきだろうと思います。

○**委員長** 早速に教育長の思いを語っていただきまして、ありがとうございます。

ほかに質問などありますか。よろしいですか。

それでは、以上で月間活動報告を終了いたしまして、日程第2、議案審議事項に入ります。

まず、議案第58号を審議いたします。教育長から説明をお願いいたします。

○**教育長** 議案第58号についてご説明申し上げます。「町田市立学校学校支援地域理事の解職及び任命の臨時専決処理に関し承認を求めることについて」でございます。

本件につきましては、町田市立学校の管理運営に関する規則第13条の4の規定に基づく学校支援地域理事について、別紙にございますように、学校長から解職及び任命の具申がございましたので、2013年10月7日付けで臨時専決処理をいたしました。そのことについて、本委員会において承認を求めるというものでございます。

解職については、2013年9月20日付けで、新しい理事の任期は、9月21日から2014年3月末日までということになります。

解職・任命のお2人の方については、別紙に記載のとおりでございます。

説明は以上です。

○**委員長** それでは、質疑に入ります。ただいまの説明に関しまして何かございますか。ありませんか。

(「ありません」の声あり)

○**委員長** それでは、お諮りいたします。議案第58号は原案のとおり承認することにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○**委員長** 異議なしと認め、原案のとおり承認することにいたします。

次に、議案第60号を審議いたします。教育長からお願いします。

○**教育長** 議案第60号についてご説明申し上げます。「町田市教育委員会児童生徒表彰規程の制定について」でございます。

本件につきましては、町田市教育委員会が、他の児童若しくは生徒の模範となるような行いをした児童若しくは生徒又は芸術、文化、スポーツ等の分野で活躍し優秀な成績を収めた児童若しくは生徒を表彰することに関しまして、必要な事項を定めるため、制定をするものでございます。また、この規程の附則において、町田市教育委員会表彰規程を改正するものでございます。

その制定の内容につきましては、1枚めくっていただいて、2枚目に制定の概要が記されております。

説明は以上です。

○**委員長** それでは、ご質問など承りたいと思いますが、いかがでしょうか。

○**井関委員** この児童生徒表彰規程ができる前に表彰したときに、正式名称は町田市教育委員会児童生徒表彰事務要領というのがあったと思うのですが、これは一応もうなくなっていい、あるいは一部内容を変えてつくるというようなことになるのでしょうか。

○**教育総務課長** 町田市教育委員会児童生徒表彰事務要領につきましては、その内容について、新しく制定いたします町田市教育委員会児童生徒表彰規程の中に整理して盛り込みましたので、事務要領については廃止したいと考えております。以上です。

○**井関委員** 何か別に事務的な基準とか、そういうものは前のままとか、あるいは新しく変わったものが載っているのですか。

○**教育総務課長** 新しい基準といたしましては、表彰の推薦基準等をつくりまして、その中でやっていきます。

○**井関委員** ありがとうございます。

○**委員長** ほかにいかがでしょうか。

○**岡田委員** 以前ありましたものを実態に合わせて整理したと捉えてもよろしいですか。

○**委員長** いかがでしょうか。

○**教育総務課長** 現状に合わせて整備していったものです。

○**教育長** つけ加えますと、従前の規程では、考え方がいわゆる表彰の対象となる児童生徒、例えばどのレベルの成績を残した場合に表彰するののかということがやや曖昧な部分がありましたので、その辺を明確にするために、先ほど教育総務課長が申し上げたような基準を別途制定するとお考えいただきたいと存じます。以上です。

○**岡田委員** 了解です。

○**委員長** ほかに質問ありますか。

私から。質問ですが、表彰の対象になる児童生徒は、町田市の公立小中学校の児童生徒に限られるのでしょうか。

○**教育総務課長** 新しい規程には、町田市の公立の児童生徒が対象ということで規定がなされています。あと団体としましては、町田市の公立の小中学生が主な構成員になっている団体について表彰いたします。

○**委員長** ほかに質問ありませんか。

それでは、質問もここまでだと思いますので、議案第60号につきまして原案のとおり決することにご異議ございませんでしょうか。よろしいですか。

(「異議なし」の声あり)

○**委員長** それでは、議案第60号は原案のとおり決することになりました。

続きますので、日程第3、協議事項に入ります。協議事項1「町田市文化財保護審議会に対する諮問について」、協議いたします。担当課より説明をお願いいたします。

○**生涯学習総務課長** では、協議事項1「町田市文化財保護審議会に対する諮問について」でございます。

諮問事項につきましては、市指定有形文化財の指定についてでございます。

指定候補について説明をさせていただきます。小山町にあります田端東遺跡から出土した土偶の頭部に当たります。約3,200年前につくられたもので、内側が空洞になっておりまして「中空土偶」と呼ばれるものでございます。残念ながら胴体の部分は発見されておりません。函館市で同様の土偶が首から下まで含めた状態で出土され、国宝に指定されているところがございます。ただし、函館の土偶は耳の部分が欠けておりまして、町田市の土偶につきましては、頭部だけに限りますと、ほぼ完形に残っているといった形で、これだけの形で残っているのは全国的にも珍しい貴重なものとなります。こちらの候補の文化財指定につきましては、11月に開催の文化財保護審議会へ諮問する予定でございます。



以上、協議につきましてご承認方よろしくお願いいたします。以上です。

○**委員長** それでは、質問や意見などありましたら、どうぞご発言をお願いいたします。

○**岡田委員** 今、頭部だけということですがけれども、こちらはもう発掘は終了していますよね。ということは、体のほうが出てくる可能性はないということでしょうか。

○**生涯学習総務課長** 残念ながら調査の結果、体の部分は出土されませんでした。

○**岡田委員** 今、こちらの土偶の頭はどこでどのように保存されていて、また、指定になった場合にはどこで展示されるようになるのでしょうか。

○**生涯学習総務課長** 現在は考古資料室で展示しております。指定後、考古資料室におきまして、その他の指定記念展示を計画中でございます。それについては、また別途報告させていただきます。

○**委員長** ほかに質問や意見などありませんでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、以上で協議を終了いたします。

続きまして、日程第4、報告事項に入ります。

まず、指導課からお願いいたします。

○**指導室長** 報告事項の1点目、「町田市立南中学校区小中連携小学校陸上記録会の実施について」、ご報告いたします。

現在、教育プランの改定を行っているところですが、改定後には、基本施策の1つとして「健やかな体の育成」を設定する予定でございます。内容としては、体力向上の1つとして、小学校段階も含めて、学校間の競技交流を通して体力の向上を図るものでございます。また、町田市では、中学生東京駅伝で過去2回の総合優勝を果たしております。小中9年間を見通した小中連携活動を推進している本市では、小学校段階から中学校段階と進むように、児童生徒の発達に応じた競技交流を通して運動する意欲を高め、体力向上を図ることが有効であると考えております。

今回、南中学校区である南第一小学校、南第三小学校、南第四小学校の6年生児童が、南中学校の校庭を使って、中学校の体育教員から技術指導を受け、先進的に連合記録会が開催されることになりました。来年度以降、全市に広めていく上で、体力向上・小中連携のあり方として大変参考になるものであり、ご報告をさせていただきました。

以上です。

○**委員長** ここで質問をお受けしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○**岡田委員** 今、指導室長のお話の中で、東京都の中学生駅伝で町田市が2回優勝したと

いう話が出たのですけれども、その駅伝で優勝した実績が2回あるということもそうですし、鶴川第二中学校、鶴川第二小学校が合唱コンクールで大変優秀な成績を収めている、ほかの中学校も吹奏楽その他で同様に優秀な成績を収めているということですが、町田市というのは規模全体が大きいので、一つ一つをそんなに大きく取り上げていないような気がしてちょっと寂しく思っています。駅伝で頑張ったということがもっと市民の皆さんに伝わるように頑張りたいなと思いました。

○**委員長** ほかに質問ありますか。

私からお伺いしたいのですが、南中学校の学区での小学校の企画だということですが、ほかの中学校区では、同じような動きは今現在どうでしょうか。あるのでしょうか、ないのでしょうか。

○**指導室長** 教育プランの中で、小学校段階での競技、連合的な行事というのは来年度以降ということになっておりますので、現時点は中学校区での動き、特に体育的行事としての動きはございません。南中学校区が初めてかと思えます。以上です。

○**委員長** 加えて質問を続けさせていただきますが、南中学校区の3つの小学校ということですが、どういう背景でこういう企画が生まれたのですか。教育委員会の後押しがあったのでしょうか。どのような経過でこの企画が生まれたのですか。

○**指導室長** 実は南第四小学校、南中学校というのは、体育だけではなくて、従前からかなり連携を深めております。それから、南第四小学校は、今年度、体育の研究において全国発表が行われますけれども、特に体育の取組について先進的にやっておりますので、そのような中、校長から中学校区に働きかけ、このような企画が設定されたと聞いております。以上です。

○**委員長** ありがとうございます。ほかによろしいですか。

それでは、報告事項2、3、4、5まで終えたところで、また質問をお受けしたいと思います。それでは、生涯学習総務課からお願いいたします。

○**生涯学習総務課長** では、報告事項2「町田市都史跡西谷戸横穴墓群保存管理計画策定検討委員会設置要綱の制定について」、報告いたします。

この要綱につきましては、都の史跡であります西谷戸横穴墓群の整備に伴いまして保存管理計画を策定することを目的に、委員会を置くためのものです。

要旨は、当委員会の組織・運営について定めるものでございます。組織といたしましては、学識経験者3人以内、住民代表1人、学区内の小学校の代表1人、郷土史に知見を有

するもの1人、計6人以内となります。

委嘱につきましては、次回の委員会で議案として提案をさせていただきます。12月に1回目の会議を開催する予定でございます。

施行日は、2013年11月1日です。来年度内に計画を策定する予定ですので、要綱の効力につきましては、2015年3月31日までとなっております。

こちらについては以上でございます。

続きまして、報告事項3「自由民権資料館特別企画展『家永三郎と植木枝盛研究』の開催について」、ご報告させていただきます。

1955年から1960年にかけて、日本史研究の第一人者であります家永三郎は、自由民権運動の指導者だった植木枝盛の研究を行い、文献を発表したところがございます。その際に使われました文献、資料などを、10年前に自由民権資料館が譲り受けました。また、今年は家永三郎氏の生誕100年に当たります。これらを記念し、史料の公開展示を行うものでございます。

開催期間につきましては、12月1日の日曜日から12月27日の金曜日。構成につきましては、レジュメに記載のとおりでございます。期間中の毎週土曜日に、担当学芸員による展示解説を行います。

以上でございます。

○**生涯学習センター長** 報告事項の4点目、「2013年度 第2回生涯学習センターまつり結果報告」についてです。

10月25日から27日までの3日間、生涯学習センターで開催いたしました。今回は、展示・発表・模擬店で57団体が参加いたしました。天候の影響で、来館者は昨年に比べて少なくなりましたが、今回も、来館者が見るだけではなく、参加・体験していただくまつりになりました。まつりの実施に当たり、企画・運営委員会、実行委員会を開催し、オープニングでは町田市出身者によるケーナ演奏、フィナーレでは阿波踊りや合唱で盛り上げていただきました。今回、若者のグループの参加もありました。後日、反省会を開催し、次年度に引き継いでいけるようにしていきたいと考えております。

以上です。

○**図書館市民文学館担当課長** 文学館より、報告事項5「『第7回文学館まつり』の結果報告について」、ご説明申し上げます。

開館以来、7回目の文学館まつりを、10月27日の日曜日に、地元の町会、商店会、まち

づくりの会と共催で実施いたしました。今回は、台風一過で天候に恵まれたこと、時代まつりや生涯学習センターまつりと重なったこともあり、入館者数は750名と今までの最高を更新しました。キッズルームを設置したこともあり、子どもからお年寄りまで幅広い層の来館者を確保できたと思われまます。

内容としましては、オープニングの和太鼓演奏をはじめ、市民店主による風呂敷・古本市を実施したほか、笠着連句、三味線ワークショップ、落語、マジック等のイベントを実施し、多くの方に楽しんでいただき、文学館をより身近な施設として感じていただけたのではないかと考えております。

報告は以上です。

○**委員長** ありがとうございます。それでは、報告2と3に関して、質問などありますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、報告事項の4と5に関連して質問などございますか。

○**岡田委員** 生涯学習センターまつりは、そちらのほうに出品とか出展をされる方も楽しみにしていらっしゃるという様子がよくわかったのですけれども、この企画・運営委員会の委員の13名という方は参加団体の中から出ていらっしゃるのでしょうか。どういう方になっているのか教えてください。

○**生涯学習センター長** 企画・運営委員につきましては、公募させていただきました。広報で公募して、13名の方に応募いただいたということでございます。

○**岡田委員** もう1点。文学館まつり、今年は2012年度と比べまして小学生以下の参加が大変増えて、とても喜ばしいことだと思うのですけれども、これは何か特別に子どもたちが集まるような仕掛けというか、企画を立てたのですか。

○**図書館市民文学館担当課長** 館内でも子どもがなぜ来たのかという議論があったのですけれども、去年と違うところは、おはなし会をするキッズルームを設けたことと、あと、キッズスペース、ヨーヨー釣りの箱をつくったところが違う点でございます。以上です。

○**岡田委員** わかりました、今後も頑張ってください。

○**委員長** 私から1つお伺いしたいのですが、27日の日曜日ですけれども、私、自分の立場がとても後ろめたかったのですが、いらっしゃいという強い声を出す方がいたので、時代まつりに行きました。本当は文学館まつりに顔を出すべきだったと思うのですけれども、時代まつりのほうに行きました。そのことで思うのですが、こういう日程を事前に調整されているのか。あるいは、先ほどの話のように、日程を合わせたほうが客が増えるだろう

という作戦を立てているのか。生涯学習の中でも2つのおまつりが重なっているわけで、ほかの時代まつりの日程も重なっている。時期的に重ならなければならないことだと思いますけれども、日程を決めるに当たって、来年度のこともありますので、どういう作戦を立てられていたのかお伺いしたいのですが。

○**図書館市民文学館担当課長** 文学館といたしましては、作戦的には日程を重ねたほうが人数は増えるということがあるので、できれば重ねたいと思っておりますけれども、実際そのとおりにいくかどうかは、そのときによって決まることで、結果的に調整はしていないような形になっております。

○**委員長** そうしますと、今年は重ねることをある意味意図していたと。時代まつりの日程等はどうかをお考えになられたのですか。

○**生涯学習部図書館担当部長** 文学館といたしましては、時代まつりと同じ日程で開催するという方向で進めたいということでやっております。この資料の2012年度を見ていただくとわかりますように、2012年度につきましては、時代まつりと同日程でできなかった。その理由といたしましては、地元町内会の役員の方がやはり時代まつりの対応もあるということで、両方対応するのは難しいということで、地元からの要請で日程を変更した結果、来場者が少なくなってしまったということもあります。地元町内会も共催しておりますので、参加される役員の方になるべく合わせる方向でお願いしたいということでお願いはしております。

○**委員長** わかりました。ほかに。

○**生涯学習センター長** 生涯学習センターといたしましても、いろいろな事業と連携をしてまつりを開きたいと考えております。秋のこの時期は、商店街でもいろいろなお祭りが目白押しでございますので、できれば今回の時代まつりと同じ時期にまつりをしたい。それで、来館者を少しでも呼びたいと考えております。

○**生涯学習総務課長** 自由民権資料館でも、今度の日曜日におまつりがございますが、11月3日が開館記念日ということで、自由民権資料館につきましては、毎年11月3日に開催したいというふうに考えております。

○**委員長** いろいろなところでいろいろな行事をやっているの、課とか部とか教育委員会という枠を超えて、情報収集をかなりやられることをお勧めいたします。それは当然、学校も同じですが、学校もこの時期いろいろ入れているなということも感じますので、お互いに情報をどうやって入手し、どの行事は先に決めるかというような、そんなこともま

たご検討いただければと思います。

○**高橋委員** 今回、生涯学習センターまつりで若者のグループの参加があったということで大変うれしく思います。若者グループはどのような形で参加なさいましたか。また、企画・運営委員が13人いらっしゃいますけれども、そこにもやはり若者などが入っているのでしょうか。

○**生涯学習センター長** 今回、1団体でございましたけれども、町田ヤング市民劇団という若者のグループが参加をいたしました。こちらのグループは、センターまつりが行われるということで、日ごろから生涯学習センターを利用されているグループでしたので参加をいただいたということでございます。

あと1点、企画・運営委員でございますが、今回は若い方の参加はございませんでした。あくまでも高齢の方の参加ということでございます。

以上です。

○**委員長** ほかに質問などありますか。

それでは、報告事項6に移ります。「『小学校給食における食物アレルギー対応の手引き（改訂版）』について」、保健給食課、お願いします。

○**保健給食課長** それでは、報告事項6「『小学校給食における食物アレルギー対応の手引き（改訂版）』について」、報告いたします。

「小学校における食物アレルギー対応の手引き」につきましては、今年3月に作成、各学校に配布し活用いただいていたところでございますが、その後、文部科学省及び東京都教育庁の通知を受けたこと、また、食物アレルギー・アナフィラキシーによる救急搬送事案などの教訓も踏まえ、改めて食物アレルギーをもつ児童への対応手順を整備するとともに、教職員一人一人が食物アレルギーに関する正しい知識を持ち、緊急時には適切に対応できるよう内容の見直しを行いました。

このたび、2013年10月、改訂版として作成し、小学校全教職員と中学校関係職員に配布いたします。

主な改訂点といたしましては、年1回は医師の診断を受け、学校生活管理指導表の提出を求める。また、シミュレーション訓練の実施、献立につきましては、そば・ピーナッツの使用を禁止することなどがございます。全体的により詳細な内容とし、様式類は、養護教諭や栄養士の意見も取り入れ活用しやすいものいたしました。さらに、東京都からの資料も盛り込んだため、改訂前には全38ページだったものが、64ページと大幅に増え

ております。今後も、この手引きを活用し、各学校での食物アレルギー対応の取組がなされるよう支援してまいりたいと考えております。

報告は以上でございます。

○**委員長** 質問などございませんか。

○**岡田委員** 1つお伺いしたいのは、64ページに増えたことで、なかなか読みこなすのに骨が折れるようになったかかもしれないと思います。小学校の先生方で、希望者だけでも講習会というか、説明会のようなものを保健給食課で企画するようなことは可能でしょうか。

○**保健給食課長** 説明会というものは、まず担当である養護教諭、また栄養士に対して行いたいということを考えております。また、その後、教職員というところでもそういったことを計画したいということで今考えております。

○**教育長** 保健給食課長が申し上げたとおりですけれども、例えばいじめなどでもよく同じようなことをやりますが、まずは代表の人に来ていただいて、それを校内で伝達研修をする。まず、その辺から始めたいと思っています。

○**岡田委員** わかりました。

○**委員長** ほかに質問ありますか。

私から。質問というより意見に近くなるかもしれませんが、内容が豊富になればなるほど全部目を通すというのは極めて難しい状況になるので、例えば数ページで、どのようにこれを活用したらいいか、どこを見ればいいのかというような、概要版というか、そういうものが同時に用意されることによって、養護教諭だけじゃなくて、一般の先生方も読んで理解できると思うのです。何でも入っているの、何でも入れてあるぞと教育委員会は言えると思うのですが、利用していただきたい側の立場に立った資料もあるといいなと思います。

○**保健給食課長** 今、委員長からお話がありましたように、枚数が増えたことによってご指摘のようなことも考えられると思っております。まず、この手引きを配布する際には、今までの手引きからの改訂点など、本日の資料にも添えてございますが、こういったものを同時にお配りしたいと思っております。

○**委員長** よろしく申し上げます。ほかに質問ありませんか。

それでは、報告事項を終わります。

ここで一旦休憩とさせていただきます。

午前11時10分休憩

---

午前11時11分再開

○**委員長** 再開いたします。

別紙議事録参照のこと。

○**委員長** 以上で町田市教育委員会第8回定例会を閉会いたします。ご苦労さまでした。

午前11時15分閉会